

平成30年冬春期の沿岸漁海況予報

1. 海況の現況(2月)

調査船「いばらき丸」による海洋観測では、2月上旬(6~7日)は、全域で「平年並み~低め」の水温環境でした。また、会瀬~鹿島定線では広い範囲で逆潮(南向きの潮)が観測されました。

過去の海洋観測結果から2月の海況を暖水, 中間, 冷水パターンに分類すると, 水温が低めの「冷水パターン」でした。

右図は2月25日におけるNOAA人工衛星水温画像です。南部沿岸域にわずかに暖水が残っていますが, 親潮系冷水が南下しており, 水温は「平年並み~低め」となっています。



図 NOAA人工衛星水温画像
(平成30年2月25日)

2. 海況の見通し

予 測: 水温は引き続き「平年より低め」で推移する。

根拠①: 2月下旬現在, 茨城県海域の水温は「平年並み~低め」で推移しています。

根拠②: 親潮第1分枝は岩手県久慈沖(40° N, 144.5° E付近)に位置しており, 親潮本流の勢力は弱くなっています。親潮の直接の影響は少ないものの, 現在茨城県海域は北から南下してきた冷水に覆われており, 今後も冷水の影響が残る見通しです。

根拠③: 現在黒潮は, 日本の南を大きく蛇行する大蛇行状態となっています。大蛇行は今後しばらく継続する見通しで, 大蛇行流路が安定すると茨城県海域への暖水波及が起きにくくなる可能性があります。

3. 船びき網漁況の見通し

(1)コウナゴ

予 測: 漁獲量は「中漁」水準(100~1,000 トン)

根 拠: 仙台湾~常磐海域全体におけるコウナゴ仔魚分布量は 2月中旬時点では少ないですが, 今後の海況は, コウナゴの発生・来遊に適した「平年より低め」の水温環境で推移すると予測されています。

(2)オキアミ

予 測: 来遊量は「中」水準

根 拠: 今後本県沿岸域の海況は, オキアミの漁場形成に適した「平年より低め」の水温環境で推移しますが, 親潮本流の勢力は弱くなっており, 親潮の直接の影響は少ないと予測されています。

(3)シラス

予 測: 漁獲量は「不漁」水準(300 トン未満)

根 拠: 今後本県沿岸域の海況は, シラスの成育・来遊に不適な「平年より低め」の水温環境で推移すると予測されており, また黒潮大蛇行の影響から茨城県海域への暖水波及は起こりにくい可能性があります。

※ シラスについては, 今後の海況や親魚の状況をふまえ, 4月に改めて予測を行う予定です。

(回遊性資源部 柴口(船曳担当), 鈴木(海況担当))